

国際関係学専攻

International Relations



本専攻は、本学の長年にわたる外国語教育の伝統を基礎に、法律・政治、経済・経営、文化の3領域から国際関係学を多面的・総合的に研究できるシステムを備えています。少人数での討論を重視した教育方法を採用し、国際社会における問題解決能力を身につけた人材を育成することを目標としています。

Based upon our long-standing tradition of foreign language education, students can conduct multidisciplinary and comprehensive studies in the three areas of law and politics, economics and business management, and culture. As part of an educational method which places emphasis on small group discussion, students are expected to develop their problem-solving skills in regard to international society.

授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles

法律・政治 Law and Politics

大石 高志 (おおishi たかし) Takashi OISHI

●教授/Professor

南アジアと環インド洋地域の近現代史を、イスラーム教徒の果たした役割などに着目しながら研究してきた。大学院では、広く、近現代のアジア・アフリカ地域を視野において、植民地主義、民族運動、宗教運動、移民、文化変容、起業家活動など、様々な社会的な動態を捉える研究を、指導している。

Post-Colonial Studies; Modern South Asian Studies;
Comparative Islamic/Muslim History; Indian Ocean History

山口 智 (やまぐち さとる) Satoru YAMAGUCHI

●教授/Professor

信教の自由

Constitutional Law

廣見 正行 (ひろみ まさゆき) Masayuki HIROMI

●准教授/Associate Professor

国際法学の中でも、自衛権や国連の軍事的措置に関する安全保障法及び敵対行為の規制や戦争犠牲者の保護に関する武力紛争法を専門として、国際武力紛争が「いつ」「どのように」終結するかを研究してきた。最近では、戦争犯罪や人道に対する犯罪などの重大な国際犯罪の防止及び処罰に関する国際刑事法の研究も進めている。

International Law, International Law on the Use of Force,
International Law of Armed Conflict, International Criminal Law

五月女 律子 (さおとめ りつこ) Ritsuko SAOTOME

●准教授/Associate Professor

対外政策および地域協力を研究課題としており、北欧諸国(特にスウェーデン)を分析対象としている。国内政治と国際関係の連関を明らかにすることを目指しており、北欧諸国とEU(欧州連合)の関係および北欧協力を事例研究として多く扱っている。

Foreign Policy, Regional Cooperation, Nordic Countries
(especially Sweden), European Union, Nordic Cooperation

経済・経営 Economics and Business Management

千葉 典 (ちば つかさ) Tsukasa CHIBA

●教授/Professor

国際貿易交渉の展開と世界農産物貿易の動向および両者の関連に関する現状分析、ならびに開発途上国における経済発展と農業の役割に関する研究。

World Economy, International Relations, International Trade, Agricultural Development

藤井 隆雄 (ふじい たかお) Takao FUJII

●教授/Professor

マクロ経済学についての実証研究を行っている。特に、財政政策に関連するテーマをこれまで研究してきた。具体的には、財政政策の効果、政府支出が民間設備投資に与える影響等である。

Applied econometrics, Macroeconomics, Fiscal policy



中村 嘉孝 (なかむら よしたか) Yoshitaka NAKAMURA

●教授/Professor

国際取引における契約的側面を、法学的・商学的観点から学際的に研究しています。特に、契約不履行について法・経済的側面を考慮しつつ、商学的な観点からの効率的な処理方法の理論構築を目標としています。そのプロセスにおいて、国際商取引のメルクマールとなるウィーン売買条約(CISG)、UNIDROIT国際商事契約原則に関する研究にも取り組んでいきたいと考えています。

International Business Practices, especially some rules and regulations used in, for example, Incoterms 2000, UCP600, CISG, UNIDROIT Principles of International Commercial Contracts.

田中 悟 (たなか さとる) Satoru TANAKA

●教授/Professor

経済社会における技術進歩の役割と効果に関する産業組織論的な分析が、一貫した研究課題である。具体的には、理論的産業組織論のフレームワークに基づきながら、企業の研究開発活動や知的財産権制度及び規格・標準が、どのような相互依存関係を持ちながら、経済社会の技術進歩や経済厚生を規定するのかを、理論的・実証的に検討している。さらに、この検討から得られた帰結を基にして競争政策や産業政策のあり方を探る研究を、並行して行っている。

Industrial Organization, Economics of Innovation, Economics of Public Procurement

江坂 太郎 (えさか たろう) Taro ESAKA

●准教授/Associate Professor

国際金融の諸問題について研究を行っている。特に、為替レートと各国の為替政策の実証分析を行っている。

International Finance, Exchange Rate, Exchange Rate Regimes



石椏 義和 (いしなぎ よしかず) Yoshikazu ISHINAGI

●准教授/Associate Professor

企業が開示する会計情報と利害関係者の意思決定の関係を研究対象としている。近年は資本市場における開示情報の役割について、市場における価格形成モデルを用いて分析している。

Financial Accounting, Disclosure, Valuation

鑑谷 宏一 (かぎたに こういち) Koichi KAGITANI

●准教授/Associate Professor

国際貿易に関わる諸問題を政治経済学的な視点から分析している

International Trade Theory, International Trade Policy, Political Economy

森谷 文利 (もりや ふみとし) Fumitoshi MORIYA

●准教授/Associate Professor

組織の経済学、契約理論、ゲーム理論

Organizational economics, Contract Theory, Applied Game Theory

文化 Culture

Edgar FRANZ (エドガー・フランツ)

●教授/Professor

ランデンシュタイン城のシーボルト家文書保管所にあるフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの書簡の草稿や覚書に基づき、シーボルトが尽力した日本の近代化への貢献、及び彼が日本開国に与えた影響を中心に研究している。加えて、医学、文学、美術などを含む多様な日独関係とその総合的な影響が研究テーマである。

On basis of Philipp Franz von Siebold's private papers and manuscripts in the Siebold Family Archives in Castle Brandenstein in Germany, the research concentrates on Siebold's significance for the modernization of Japan, the political dimension of Japans activities and Siebold's influence on the opening of Japan for trade and navigation. Furthermore, various relations between Japan and Germany and their mutual influence, including medicine, literature and art are explored.

並河 葉子 (なみかわ ようこ) Yoko NAMIKAWA

●教授/Professor

19世紀イギリスにおける博愛主義の成立と帝国拡大の関連についての研究を行っている。

British imperial history, especially the international anti-slavery movement and the missionary activities from the late 18th century to the 19th century.



指 昭博 (さし あきひろ) Akihiro SASHI

●教授/Professor

テューダー朝を中心とする、近世イングランドの歴史研究。特に、宗教改革史との関連で、メアリ1世時代の教会・宗教と社会についての研究。また、近代イギリスにおけるナショナル・アイデンティティ形成と歴史意識や宗教との関わりについての研究や、生活文化に視点を置いた社会史についても研究を進めている。

History of the English Reformation; Social history of early modern England.

山之内 克子 (やまのうち よしこ) Yoshiko YAMANOUCHI

●教授/Professor

18・19世紀のウィーンを中心に、ドイツ語圏および旧ハプスブルク帝国領の諸都市に関して、社会文化史的な見地からの研究を行っている。

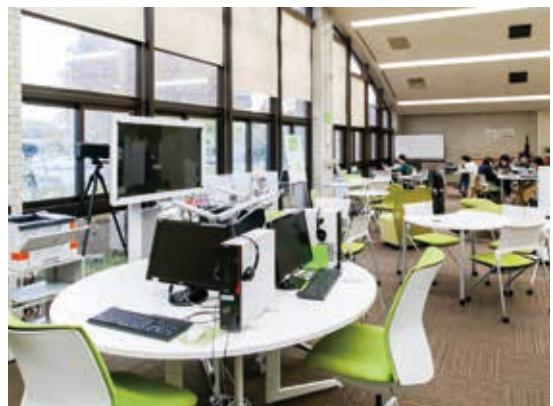
Cultural History of Central Europe

太田 悠介 (おおた ゆうすけ) Yusuke OTA

●准教授/Associate Professor

フランス思想、思想史。現代フランスの思想家エティエンヌ・バリバルを中心として、20世紀後半以降に現れた政治と共同性をめぐる思想を研究している。フランス思想に足場を置きながら、近年はポスト植民地時代の移民社会という現代フランスの課題を視野に入れて、思想と社会のはざままで考察を進めている。

French Philosophy, History of Ideas, Ideas of Politics and Community, Immigration, Etienne Balibar.



最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

法律・政治領域

- ・ 国際取引紛争とその解決
- ・ 日本と中国の信託法の比較について
- ・ 日米製造物責任法
- ・ 日中信託法の比較研究
- ・ 中国と日本におけるM&Aに関する比較法制の研究
- ・ インサイダー取引規制の中日比較

経済・経営領域

- ・ オープンイノベーションに関する一考察
— 国立大学の産学連携活動に影響を与える要因を探る —
- ・ 中国東北三省における主要食糧の生産
- ・ イギリスのEU離脱における中国と日本の受ける影響の比較研究—貿易と投資の観点から

文化領域

- ・ 黄金期オランダ絵画に見る道徳表現について
- ・ W.ヴォリンガー「抽象と感情移入」をめぐる考察
- ・ カイ・ニールセンとギフト・ブック
— 20世紀初頭イギリスにおける挿絵本の文化 —
- ・ 身体の哲学的探求—竹内敏晴を手掛かりにして



院生紹介 Message from a Student

—なぜ修士課程に進学しようと思いましたか？

他校を卒業し、職業人として日々を過ごす中、もともと他国に興味があり、仕事で海外ビジネスに接しながら、私は勤労学生として本学の第2部英米学科法経商コースへ進み、法学分野を中心に学びました。そもそも論になりますが、第2部入学理由は植田淳教授の講義を受講したからです。そして第2部卒業後、より深い専門知識と教養をさらに身につけたいと考え、本学の大学院へ進学しました。

—神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。

前述のとおり、私は社会人特別選抜制度を利用し第2部英米学科(大学)を卒業しました。本学修士課程においても長期履修学生制度が創設され、通常2年間の修士課程期間を、社会人は最大4年間まで延長できるようになりました。社会人には大変、有難い制度です。長期履修学生制度は、仕事や家庭等の都合により学ぶことを諦めざるを得なかった方々に学ぶ機会を提供すると共に、本学で学ぶ者に、幅広い年齢層の学生が共存する学びの場を共有する機会を与えてくれます。また、留学生と共に学ぶことも魅力の一つでした。

—修士課程進学を考えている方にメッセージをお願いします。

もし、貴殿が少しでも修士課程に興味をお持ちなら、迷わず進学することをお勧めします。人生がより豊かになるでしょう。“The sooner! Better!”です。

自身についてですが、本学で学んで良かった点はたくさんあります。まず日本に関する知識が深まったことです。さらに他国に関する知識も深まりました。例えば、昨今のCOVID-19(コロナウイルス)パンデミック問題を考えるとき、COVID-19 Crisisについて国内外の社会、行政、法律、経済、ビジネス、国際協調等の多面的なアプローチを以前よりも深く考えられるようになったと思います。グローバル社会ではひとつの事象は国を超え様々な展開を見せます。事象の一つ一つがリンクしていくことが具体的に理解できるようになりました。このように本学で学ぶことは、これからの人生において公私を問わず間違いなく役立つと考えています。

小西 妙子(長期履修3年)
Taeko KONISHI